畜産みやぎ

題字
宮城県知事　村　井　嘉　浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話　022－298－8473
編集発行人
高　橋　　正
印刷所
㈱東北プリント

干支《寅》

もくじ
CONTENTS

会長年頭挨拶……2
知事年頭挨拶……3
第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて……4
宮城県家畜人工授精師協会創立70周年を迎えて……5
2022年度・2023年度
ミルクキャンペーンキャラクター決定！！……6
高病原性鳥インフルエンザの発生状況と
一斉点検について……7
畜試便り……8
衛生便り……9
アカバネ病予防接種の実施について……10
農業大学校生の抱負……10
馬事畜産振興の活動報告……11
価格安定対策事業の発動状況について……11
賀春……12

みやぎの畜産情報発信基地

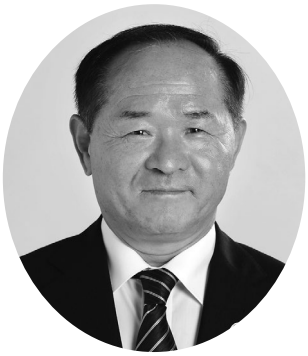
宮城県畜産協会ホームページ

ＵＲＬ　http://miyagi.lin.gr.jp

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。

VEGETABLE OIL INK
GREEN PRINTING JPPI P-810021
R70

〈会長年頭挨拶〉



一般社団法人　宮城県畜産協会
会長　高　橋　　正

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は一昨年から引き続き､ウィズコロナのなか、世界的な経済の低迷が続きました。経済効果を期待されていた東京オリンピックもほとんどが無観客で開催され、インバウンドの効果も期待されていたものではありませんでした。

和牛の枝肉価格につきましては、新型コロナ禍による下落があった一時期よりは持ち直し、概ね前年より高値で推移しました。しかしながら新たな変異株のオミクロン株のまん延状況によっては消費や価格に影響が出る可能性があり、今後も先行き不安な状況が続くものと考えられます。

家畜の監視伝染病につきましては、令和元年９月に国内で26年ぶりに発生した豚熱が、昨年12月には県内の２カ所の大規模養豚場において発生し、合わせて約１万８千頭余りの豚が殺処分となりました。１月11日には防疫措置は完了しましたが、ワクチン接種済の豚群での発生でもあり、今後、一層の防疫対策を強化していく必要があります。野生イノシシに対する経口ワクチンの散布も行われていますが、野生動物の侵入防止、畜舎周辺の消毒等の徹底が求められています。

高病原性鳥インフルエンザは、昨年の11月から西日本及び東北では秋田県や青森県で発生しており、なお一層の飼養衛生管理の徹底が引き続き求められています。

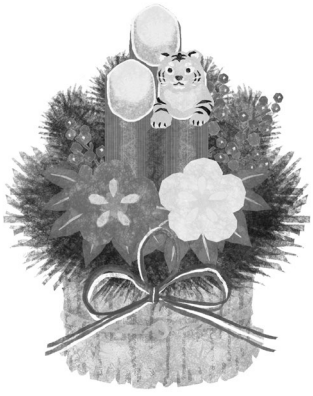
また、飼料価格については、原油価格高騰の影響を受けたトウモロコシのエタノール需要の増加や燃料高騰による海上輸送費の増加、外国為替の円安の影響を受け、しばらく高騰が続く見込みとなっており、畜産経営に与える影響が心配されています。

昨年末に懸念された生乳の廃棄については、メディアを通じた国等の消費拡大への呼びかけや、乳業メーカーの努力により、何とか回避されたとのことで一安心したところです。

一方、今年は10月６日～10日に第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会が開催されます。本協会では県代表牛の最終選考会を兼ねて、７月に宮城県総合畜産共進会の肉用牛の部を開催いたします。本県で開催され、好成績を収めた前回大会の勢いのまま、本県代表の躍進を期待します。

本協会といたしましては、国や県等関係機関と連携し、肉用牛の増頭対策をはじめとする畜産経営基盤の体質強化と、さらなる畜産振興のための諸事業を実施するとともに、新型コロナ感染症及び災害対策等として、各種緊急支援事業等に取組んで参りますので、関係機関及び会員の皆様方のさらなるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、今年は寅年です。60年に１度の壬寅（みずのえとら）という「新しく立ち上がる」や「生まれたものが成長する」等を意味する縁起の良い年で、畜産業界にとりましても実り多い年となりますよう祈念するとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



〈知事年頭挨拶〉

宮城県知事　村　井　嘉　浩

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

昨秋に行われた知事選挙において、私は県民の皆様の御支持をいただき、引き続き県政運営を担わせていただくことになりました。５期目の責任の重さを痛感しているところでありますが、県民の皆様の負託に応えるため、県政の様々な課題に全力を尽くして取り組んでまいります。

昨年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、県内では、宮城スタジアムにおいてサッカー競技が行われました。また、宮城県ゆかりの選手の活躍も光り、県民に大きな感動と希望を与えてくれました。さらに、全国豊かな海づくり大会が本県で初めて開催され、天皇皇后両陛下にオンラインで御臨席賜りました。これらの大きな大会を通じて、東日本大震災から10年を経て復興した宮城の姿を広く発信することができました。

一昨年から猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症については、感染拡大防止に向けた外出自粛や休業要請等に伴う消費の低迷、観光客の減少などにより、地域経済をはじめとした幅広い分野が影響を受けましたが、感染拡大防止の切り札とも言えるワクチンについては、接種を希望する多くの県民の皆様に２回の接種を終えていただくことができました。３回目の接種も円滑な推進に努めてまいります。

畜産分野については、昨年12月、県内の養豚場で豚熱の発生が確認されました。宮城県内で初めての発生であったこと、その後、２例目が相次いで発生したことを踏まえ、改めて飼養衛生管理基準の遵守・徹底の重要性を認識しているところであります。県といたしましては、野生いのししへの豚熱経口ワクチンの散布、豚飼養者の方々への指導の強化等、同病の発生を未然に防ぐための方策を実施していくとともに、万一の特定家畜伝染病発生時には、迅速に防疫措置を完了させ、まん延防止に向けた体制を強化してまいります。県内畜産農家の皆様におかれましても、飼養衛生管理基準の遵守を引き続き徹底していただき、家畜伝染病の予防に努めていただきますようお願いいたします。

今年は、５年に１度の和牛の祭典である「全国和牛能力共進会」が鹿児島県で開催されます。平成29年に行われた前回大会の宮城大会では、多くの皆様の御支援と御協力により、全９区のうち８つの区で優等賞に入賞し、出品団体表彰では４席になるなど過去最高の成績を収めました。鹿児島大会に向けて、出品対策に継続して取り組み、宮城大会を上回る成績を目指してまいります。

また、新たな県政運営の指針である「新・宮城の将来ビジョン」の２年目に入ります。昨年に引き続き、市町村やＮＰＯ、企業など多様な主体と連携・協働しながら、新型コロナウイルス感染症対策と復興完了に向けた施策に力を入れるとともに、「新・宮城の将来ビジョン」に基づく取組を着実に推進してまいります。特に、あらゆる分野でデジタル技術を最大限に活用しながら、県民サービスの向上や県内産業の活性化等を図るとともに、若者の県内定着や子ども・子育てを社会全体で支える環境整備、外国人材の受入促進に重点的に取り組んでまいります。

そして、令和４年は県制150周年の節目の年でもあります。宮城県は誕生から150年という歴史の中で、数々の災害や困難を乗り越えながら歩みを進めてまいりました。私たちにはこれをさらに発展させ、引き継いでいく使命があるものと考えています。県民の皆様一人一人が、地域の歴史や魅力を探求しながら郷土への愛着を深め、明るい未来を展望することができるよう、多様な主体による魅力ある地域づくりを進めるとともに、安全で恵み豊かな県土の中で、幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城を目指して取り組んでまいりますので、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて
～特別区（高校・農業大学校の部）の巡回調査・指導～

第12回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会（全共）が今年の10月に開催されます。前回大会で柴田農林高等学校が優秀賞３席を獲得した復興特別出品区「高校の部」は付帯行事として開催されましたが、今回大会から新たに特別区「高校及び農業大学校の部」が正式な区として設定されました。この出品区の狙いは、和牛に関する歴史や伝統、技術を伝承しながら未来を託す担い手を育み、また地域を牽引する技術員も養成しつつ、地域全体での取り組みを推進することとされています。

本協議会では、令和元年度から各農業高校への説明会、全共への参加希望調査、交配希望精液の配布など出品候補牛の生産に向けた取り組みを行ってきました。各高校の積極的な出品候補牛の生産に向けた取り組みの結果、出品候補牛となる雌子牛が９頭生産されました（表１）。

今年度の９月から11月にかけては、それらの産子調査を実施し、今後の飼養管理に関する指導や各高校内の選抜に向けた助言を行いました。

今後も各地域の和牛改良組合及び調教指導員の先生方にも御協力いただきながら、継続した出品対策を講じ、前回大会を上回る成績を目指します。

表１　県内の各高等学校の鹿児島全共出品候補牛生産状況

高校名	交配雌牛　頭数	受胎頭数	分娩頭数（雄）	分娩頭数（雌）	雌産子の父の種雄牛名
小牛田農林高校	3	3	1	2	洋糸波、平勝美
宮城県農業高校	9	9	5	4	花茂桜、洋糸波３頭
加美農業高校	3	1		1	皐月彰
柴田農林高校	4	3	3		対象牛なし
登米総合産業高校	2	2		2	洋糸波、洋勝忠
合　計	21	18	9	9	

（宮城県農政部畜産課　斉藤　隼人）

宮城県家畜人工授精師協会創立70周年を迎えて

宮城県家畜人工授精師協会

宮城県家畜人工授精師協会創立70周年記念式典が、令和３年11月30日（火）、大崎生涯学習センター（パレットおおさき）を会場に97名のご出席のもと開催されました。

菅原会長からの式辞に始まり、高橋副会長から家畜人工授精技術の進歩、家畜改良への貢献など、協会の70年間の歩みについて報告がなされました。

式典は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、表彰行事のみ執り行いました。農林水産省東北農政局長賞をはじめ、各賞63名２団体に対し表彰状を授与した後、ご来賓の方々よりご祝辞を賜りました。

閉式にあたり、大槻副会長より「我々家畜人工授精師は、会員総じてスクラムを組み邁進し、宮城県の畜産振興に寄与することを改めて確認し、日々努力を重ねていく」と力強い宣言がなされ、会員一同、その思いを強くした様子でした。

今後とも、本協会が取組む活動につきまして、関係各位のさらなるご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

会長挨拶

東北農政局長賞（大江 義之 氏）

会場風景

（事務局：一般社団法人 宮城県畜産協会家畜改良課）

2022年度・2023年度ミルクキャンペーンキャラクター決定！！

宮城県牛乳普及協会

昨年の11月28日（日）にホテルモントレ仙台にて、「ミルクキャンペーンキャラクター選考会」を開催いたました。例年、一般公開も含め牛乳の試飲コーナーを設けて開催しておりましたが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、関係者のみでの開催といたしました。

応募総数62名の中から、書類審査を経て選出された10名による最終選考が行われ、栄えある2022年度・2023年度ミルクキャンペーンキャラクターに選ばれたのは、「大山夏実さん」と「高橋優奈さん」です。

大山さんは、営業職ともあり明るく人の心情に沿ったコミュニケーションを取れることが魅力です。高橋さんは、笑顔が素敵でその場を明るくする力がある印象を受けました。どちらも牛乳・乳製品PRに対する熱意を強く感じました。

最終選考会ともあり、10名の出場者それぞれに魅力があり、優劣付け難く、２名の選出に苦慮いたしました。

また、現ミルクキャンペーンキャラクターの「飴井千晃さん」、「木村柚衣さん」は新型コロナウイルスの影響もあり実質１年程の活動期間となり心残りではありますが、その分来年度からはお二方に、牛乳・乳製品の魅力をPRして消費拡大に取り組んでいただきます。

（飯塚　大智）

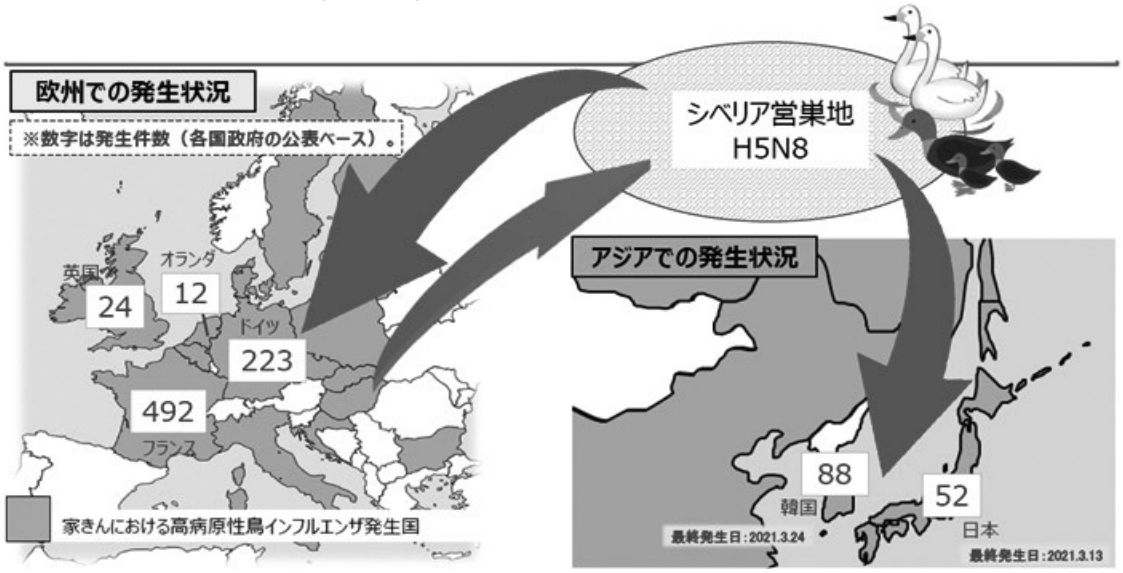
高病原性鳥インフルエンザの発生状況と一斉点検について

宮城県農政部家畜防疫対策室

昨シーズン（2020年-2021年）の養鶏場における高病原性鳥インフルエンザの発生は、令和２年11月から令和３年３月までに18県52事例76農場で確認され、殺処分羽数は、約981万羽に登り、発生事例数及び殺処分羽数ともに過去最高を記録するなど、大流行となりました。また、飼養羽数が100万羽を超える大規模養鶏場において連続で発生し、かつ、埋却地の確保が不十分であったなど、防疫措置に困難を極める県も見受けられました。

この大流行の背景としては、2020年の夏に、シベリアで検出されていたウイルスが、渡り鳥によってアジアや欧州に持ち込まれたため、日本に限らず、世界規模で養鶏場等における高病原性鳥インフルエンザの発生があったと考えられています。さらに、令和３年度当初から今シーズン（2021年-2022年）も同様の状況になる恐れがあると、危惧されていました。

＜2020年-2021年シーズンのアジア・欧州の発生状況＞



今シーズン、渡り鳥が飛来する季節となり、国内の高病原性鳥インフルエンザ発生状況は、令和３年11月10日に秋田県の養鶏場で発生して以降、令和４年１月末現在、15事例、21の養鶏場及びあひる飼養農場で約101万羽の殺処分を行っており、また、野鳥においても、12事例の感染を確認しており、今シーズンも国内での発生リスクは極めて高い状況であります。

このような状況の中、鶏を飼養する方におかれましては、高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するため、家畜伝染病予防法が示す飼養衛生管理基準の遵守が重要ですが、下記に示す７項目につきましては、特に徹底していただきますようよろしくお願いします。

①衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒　②鶏舎に立ち入る者の手指消毒
③衛生管理区域専用の衣服及び靴の使用　④鶏舎ごとの専用の衣服及び靴の使用
⑤衛生管理区域に立ち入る車両消毒　⑥ねずみ及び害虫の駆除
⑦野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕

なお、これら７項目については、今年度も令和３年９月から令和４年３月まで、毎月、自己点検をしていただき、その状況について県にご報告をしていただく「一斉点検」を実施しておりますので、点検結果について最寄りの家畜保健衛生所までご連絡していただきますようよろしくお願いします。

（衛生安全班　石橋　拓英）

〈畜試便り〉

酪農における分娩管理の省力化～ICT機器の活用と昼間分娩誘起法～

宮城県畜産試験場

牛の分娩兆候は24時間前の体温変化、尾根部靱帯の弛緩、乳房の腫脹具合などの変化により把握することが可能ですが、個体差があるため監視や介助の準備に苦慮することがあります。また、夜中の分娩介助は管理者の精神的・肉体的負担も大きく、監視がないまま分娩が始まった場合には異常産の発見が遅れ、死産に至るケースが少なくありません。そこで、分娩管理の省力化を目的にICT機器である分娩監視システム「モバイル牛温恵（株式会社リモート）」の活用と「昼間分娩誘起法」を組み合わせた分娩前の管理を実施し、効果を検証しましたので紹介します。

【調査方法】

令和２年５月から12月までに分娩予定のホルスタイン経産牛14頭について夜間給餌を行い、牛温恵の通報及び分娩時間を調査しました。また、令和元年度の同時期に分娩したホルスタイン種経産牛33頭を対象区とし、分娩時間及び昼間分娩率を比較しました。

【昼間分娩の誘起方法】

１．昼間分娩の定義

今回の調査では、酪農家の作業時間帯と考えられる午前５時から午後９時までの分娩を昼間としました。

２．誘起方法

分娩予定日の最低７日前から、午後４時に１日分の要求量を全量給与し、翌日午前９時まで自由採食としました。

【分娩予知通知システム「モバイル牛温恵」を活用した分娩監視】

分娩前10日前後に膣内へセンサーを挿入し、下記の通報が担当職員に入ることで、分娩介助の準備及び経過観察の強化を実施しました。

イ　段取り通報：分娩のおよそ24時間前に現れる分娩兆候特有の体温変化で通知

ロ　駆け付け通報：体温センサーが牛の膣外に脱出し37度以下に低下した場合に通知

【結果】

表１に分娩状況の年度比較を、図１に分娩時刻の分布を示しました。今回の調査では、夜間給餌を行った14頭中11頭が昼間分娩となり、うち８頭が当場の勤務時間である８～16時45分の間、とくに12～15時に分娩が集中しました。調査期間の昼間分娩率は79%となり、前年度の同時期と比較して12%上昇しました。また、分娩予知通知システムを併用することで、分娩兆候を正確に把握できたため、無監視分娩は発生しませんでした。

【まとめ】

今回の調査から、夜間給餌により昼間分娩率が高まり、分娩が管理作業時間帯に集中する傾向を認めたことから、夜中の時間外労働が減少し、分娩監視業務の負担軽減に一定の効果があったものと推察されました。また、無監視分娩が減少し、十分な分娩介助ができたことから、分娩前後の事故低減に有効であると考えられました。

今後は、この取組みを継続し、分娩事故や労力軽減の効果を追跡調査するとともに、牛温恵による体温の変動と分娩時間の関係や分娩後の疾病発生状況、生産性の違いについても追加で検証していこうと思います。

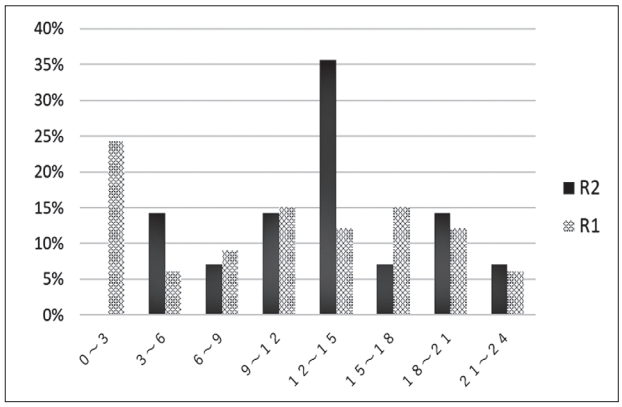
※夜間給餌の注意点

夜間給餌を行う場合、分離給与を行っている農場では、先に粗飼料を十分与えてから配合飼料を給与するなど飼料の給与順や時間に留意して下さい。また、昼間分娩誘起の成功率は100％ではないこと念頭に置き、分娩監視システムや目視による分娩兆候の把握に努める必要があります。

表1　分娩状況の年度比較（5/15～12/31）

	R1	R2
分娩頭数	33	14
昼間	22	11
夜間	11	3
昼間分娩率	67%	79%
無監視分娩件数（%）	6（18%）	0（0%）

図１　分娩時刻の分布



（酪農肉牛部乳牛チーム　佐沢　公子）

〈衛生便り〉
家畜伝染病発生時に備えた埋却地の準備をお願いします

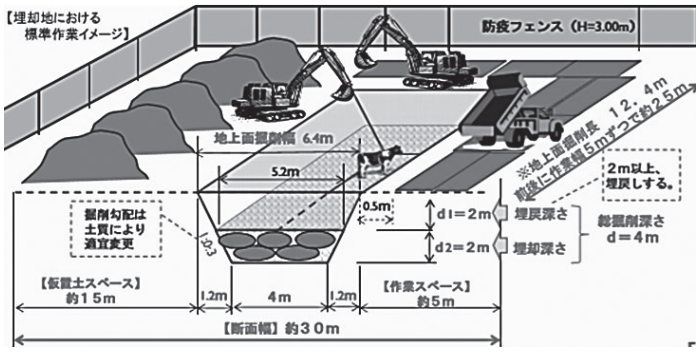
宮城県東部家畜保健衛生所

令和３年６月以降、県内では野生イノシシの豚熱陽性事例が確認されており、同年12月には養豚場２農場でも豚熱が発生しました。また、高病原性鳥インフルエンザは、今シーズン９県12農場で発生し（令和４年１月11日時点）、東北での発生事例もあることから予断を許さない状況が続いています。

口蹄疫、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の伝染病が発生すると、まん延防止のために家畜を処分し、処分した死体及び汚染物品（飼料、敷料、排泄物など）は原則として埋却処理されます。埋却する土地は家畜の飼養者が準備することと規定されており、飼養頭数に応じた埋却地の準備が必要です。埋却地が準備できていないと、伝染病発生時の防疫措置に遅れが生じますので、埋却地が不足している農場は早急に準備をお願いします。また、土地の立地条件によっては、地下水、河川や民家との距離、文化財が埋蔵されているといった点から、埋却に適さない場合があります。なお、令和３年９月に家畜伝染病予防法施行規則が改正され、家きんは令和４年10月１日、養豚は令和６年４月１日までに埋却地またはそれに準じたものを準備することが明記されましたので、ご注意ください。詳しくは管轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。

埋却穴（長さ10m）1本の埋却可能頭数産状況

牛	豚（肥育豚）	豚（繁殖豚）	鶏
15頭	135頭	45頭	8,000羽



家畜伝染病発生時の埋却作業マニュアル（宮城県農政部）より抜粋

（防疫班　岡　希）

アカバネ病予防接種の実施について

一般社団法人　宮城県畜産協会

【アカバネ病とは】

アカバネウイルスを保有するウシヌカカ等の吸血によって感染します。

妊娠牛が感染すると胎齢により、流産や胎児の奇形（脊椎や四肢の湾曲）・大脳欠損などの異常産を引き起こします。

平成22年夏から平成23年春頃に、東北地方を中心に大流行し、宮城県でも死・流産や異常子牛が多数確認され、大きな被害を及ぼしました。

毎年実施されている「おとり牛」の抗体検査では、平成３年度の県内での陽転は確認されませんでしたが、これまで、概ね10年周期で流行が見られており注意が必要です。また、近年、ワクチンの接種頭数は減少傾向にあり、ひとたび流行すると大きな被害が発生することが懸念されています。

アカバネ病は、ウイルスによる病気のため、発生してからでは治療法がありません。被害を防ぐには、ワクチン接種が最も効果のある予防法です。

母牛には、毎年ワクチンを接種しましょう！

【アカバネ病予防接種の実施】

・注射料金：2,140円/頭
・接種時期：４～６月に実施予定です
・接種申込：市町村に申込み願います
（大崎地域の和牛は農業協同組合に申込み願います）

【畜主の皆様へのお願い】

・事前に牛の健康観察を行うとともに、接種時には、必ず立会い、保定をお願いします。
・分娩間際、分娩直後の牛、体調不良の牛については、獣医師と相談の上で、接種するようにしてください。
・立会がない場合は、接種できないこともあります。事故防止のため、ご協力をお願いします。

（家畜衛生課）

〈農業大学校生の抱負〉

将来に向けて

２学年　梅津　陽介

私の両親は、福島県福島市に住んでおり、実家は梨農家です。私が幼い頃は家族で仙台に住んでおり、農業に触れる機会がありませんでした。私が農業に興味を持ったのは、小学生の時です。兄が通っていた宮城県農業高等学校の文化祭に行き、初めて家畜を見学しました。この時に馬とふれあい、農業に興味を持ち始めました。

それから、私は親の実家の農作業を手伝うようになり、自分も農業をやりたいが、違う部門をやりたいと考えた時、動物が好きなので家畜関係の仕事をやってみたいと思いました。

そこで高校卒業後、宮城県農業大学校畜産学部に入学することを決め、入学前から１年生の時までは養豚専攻を希望していました。１年生で岩出山教場の専攻実習で初めて畜舎での作業を体験し、とても新鮮で、同じ学部の仲間たちが分からないことを教えてくれてとても勉強になりました。また、大学校では１年生で先進農業体験学習という、先進的な農家で約一か月間農作業を体験する科目があり、私は大崎市田尻の「株式会社アグリプライム」で、養豚の飼養管理の作業を体験し、多くのことを学びました。

岩出山教場での飼養管理実習で牛の飼養管理をしていた時、牛の血統や飼養管理で肉質が変わり、農家ごとにこだわりがあることがわかり、肉牛についてもっと勉強したいと考えるようになりました。

私は２年生になり肉牛専攻に決め、現在は日々の実習で牛の扱い方や管理の仕方を学んでいます。そして、夏休みには就業体験研修で登米市で肉牛の肥育を経営している「株式会社うめつ」に行き、５日間のインターンシップを体験させてもらいました。短期間でしたが様々なことを学ぶことができ、この会社で働いてみたいと考え、就職活動をした結果、卒業後は、この「株式会社うめつ」から内定をもらいました。就職に向けて、また就職後も、より良い牛の飼養管理が出来るように、学ぶことを続けて頑張っていきたいと思います。

馬事畜産振興の活動報告

宮城県地域畜産振興対策協議会

馬事畜産振興推進事業（地方競馬全国協会委託）において、地方競馬並びに畜産・畜産物に対する認識を深めるため、下記のとおり普及・啓発活動を行いました。

「岩手競馬　畜産フェア」の報告

地方競馬の振興と畜産物の普及啓発を図るため、令和３年10月31日(日）岩手競馬盛岡競馬場において、宮城、青森、岩手、秋田、福島との５県合同による「畜産フェア」を開催しました。

当日は、開門と同時に各県畜産加工品の引換券を入場ゲートにて、先着1,370名様に配布し、11時から17時まで随時引換えを行いました。（宮城200名：蔵王クリームチーズセット、青森150名：青森シャモロックカレー、岩手400名：ウインナーセット、秋田100名：比内地鶏カレー及び男のホルモンセット、福島520名：福島牛ビーフシチュー180名・酪王カフェオレサブレ340名）

競馬を楽しんだあとの畜産加工品のプレゼントに来場者は大変よろこんでいました。

「馬事畜産振興現地検討会」の報告

令和３年11月29日（月)、岩手競馬水沢競馬場において、地方競馬の普及啓蒙に資するため宮城県地域畜産振興協議会（(一社)宮城県畜産協会）主催による現地検討会を開催しました。

パドックがリニューアルされ、完成セレモニーが行われた翌日だったこともあり、参加者からは、「新しく広くなったパドックを見ることができました」、「実物の馬を目の当たりにしたレース観戦は迫力があり、楽しく過ごせた」等の声をいただき有意義な検討会となりました。

（事務局：一般社団法人 宮城県畜産協会）

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人　宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価　（単位：円）

販　売　月	肉専用種（宮城県）	交　雑　種（全国）	乳　用　種（全国）
令和３年10月　（概算払）	―	（13,215.0円）	（17,778.0円）
11月　（概算払）	―	―	（30,296.1円）

※　令和３年７月以降の概算払いは、配合飼料価格安定制度の発動状況を加味し、算定額から6,000円を差し引いた額の振り込みとなります。（これまでは4,000円）

◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン）の交付金単価　令和３年度第１～３四半期　交付なし

賀　春

宮城県農業協同組合中央会長	高橋　正
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	大友良彦
宮城県農業共済組合長理事	佐藤　敬
みやぎ農業振興公社理事長	寺田守彦
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	伊藤一成
宮城県酪農農業協同組合代表理事組合長	渡邉　博
宮城県家畜商協同組合理事長	渡邊　通
全国和牛登録協会宮城県支部長	都築祐一
宮城県ホルスタイン協会長	半澤善幸
宮城県ホルスタイン改良同志会長	千葉義文
宮城県家畜人工授精師協会長	菅原三郎
宮城県畜産協会長	高橋　正